

広島大学の知に触れる情報誌

H-plus

August 08
2024

Hiroshima University Magazine vol.25

祝! 75+75周年
未来へ羽ばたく広島大学

【CROSS TALK+】

真摯に報せる、科学の真実。100年後に輝く自由闊達な研究を目指して。

科学ジャーナリスト 元村 有希子氏 + 広島大学 学長 越智 光夫

【特集】 特別企画

75+75周年

広島大学のこれまでとこれから

散

詩

語

録

平和実現に向けた一歩を

今年も8月6日に東千田キャンパスの原爆死没者追悼碑において、国内外のゲストの方を交え、原爆で亡くなられた本学の学生、生徒、教職員の皆さんを追悼し、核兵器の廃絶や平和の実現を誓いました。広島大学の重要な使命の一つは、テロ、紛争、貧困、環境破壊、感染症などの諸問題を解決に導き、平和で持続可能な社会の実現を目指すことです。紛争の絶えない世界に向け、平和の実現につながるメッセージを発信し続けていくことが私たちの重要なミッションの一つです。

今春、「原爆の父」と呼ばれた物理学者ロバート・オッペンハイマーの半生を描いた米国の映画『オッペンハイマー』が、広島で上映されました。彼は、米国政府から原爆の開発を担い完成させますが、広島への投下による惨状に、開発したことを後悔し、水爆開発に異を唱えます。しかし、その行動が米国政府から非難され、英雄から転落していく半生が描かれています。心理的葛藤を複雑に描写した卓越な手法で、観客に感動を与えることができたためでしょう、2024年のアカデミー賞で作品賞など7部門を受賞しました。

しかしながら、広島市民としては彼の心情に共感し、映画にのめりこむことはできませんでした。彼一人の苦悩の向こうには、広島で約14万人の人が亡くなったという事実があり、今でも後遺症に苦しんでいる人がいる現実があります。そして、今も3つ目の核爆弾の投下が起こらないよう、被爆者がそのつらい体験を具体的に訴え続け、広島市も世界へその非道さを発信し続けています。昨年のG7広島サミットで、各国首脳が原爆資料館を訪れ、直接見てもらったように、『オッペンハイマー』を観て感動した方々には、ぜひ広島に足を運んでいただき、映画に描出されなかった事実を知っていた

Take a first step towards realizing world peace

Atomic Bomb Day came around again on 6th August this year. On that day, the 'Hiroshima University Memorial Service for the Victims of the Atomic Bomb' was held on the Higashi-Senda Campus, where guests from Japan and abroad joined us to commemorate our students, faculty and administrative members who fell victim to the atomic bombing. During the ceremony, we all pledged to abolish nuclear weapons and realize peace. One of the important missions of Hiroshima University is to help bring about solutions to global issues such as terrorism, conflict, poverty, environmental destruction, and infectious diseases, in order to bring about a peaceful and sustainable society. One of our key roles is to continue to spread peace-facilitating messages across the world, which is in constant conflict. Hiroshima saw the release of the U.S. film 'Oppenheimer' this spring, which depicts the life of theoretical physicist Robert Oppenheimer, known as the 'father of the atomic bomb'. In 1942, he was appointed by the U.S. government to work on an assignment that entailed developing the atomic bomb; he and his team in the end completed the mission successfully. However, after recognizing the catastrophic damage of the atomic bombing to Hiroshima, Oppenheimer regretted having developed the bomb. After that, he started to oppose the development of the hydrogen bomb. This conviction of Oppenheimer was condemned by the U.S. government. From that point onwards, the film depicts his downfall from a national hero. The film won seven Academy Awards in 2023, including Best Picture, because it eloquently depicts Oppenheimer's complex psychological conflict, which in turn moved audiences around the world. However, as a citizen of Hiroshima city, I could neither identify with his sentiments nor could I get absorbed in the film. More important than Oppenheimer's conscientious objections is the fact that some 140,000 people fell victim to the atomic bombing in Hiroshima, and that still today some people are suffering from the after-effects of the bombing. To prevent any country from dropping a third nuclear bomb in the world, the hibakusha [the atomic bomb survivors] have been sharing their tragic experiences with people around the world, while Hiroshima city also has long been engaged in conveying the atrocity of the atomic bombing to the world. Indeed, last year the leaders of the G7 nations visited the Hiroshima Peace Memorial Museum during the G7 Hiroshima Summit, having the opportunity to see the grim reality of the atomic bomb. Likewise, those who were moved by 'Oppenheimer' are encouraged to

だくことが平和な未来への第一歩だと思っています。あの日の惨劇を記した書籍には、広島県出身で文化勲章受賞者の阿川弘之氏による『魔の遺産』や『世界に羽ばたく。教養の力』の講師で、本学総合科学部出身の堀川恵子氏による『チンチン電車と女学生』など多くのものがあります。『魔の遺産』には、被爆から7年後の市民生活や後遺症に苦しむ被爆者が、『チンチン電車と女学生』には、路面電車の運転を担った女学生らに起きた悲劇が、いずれも詳細に描かれています。学生諸君はこれらの本の一冊をぜひ読んでいただき、広島大学生として核兵器の怖さや被爆者の苦しみを見つめ、平和の実現に向け何ができるか考えてもらいたいと思います。私たち人類は二度と同じ過ちを犯さないよう、過去のつらい経験を学んできました。広島大学では、「平和を希求する精神」を理念の第一に掲げ、「平和センター」で平和を調査・研究し、学生の皆さんも、選択必修科目「平和科目」や「ピース・レクチャー・マラソン」などで過去に学び、平和への理解を深めてきました。さらに昨年5月からは、5つの重要課題「5イニシアティブ」を策定し、平和を「創る」大学を目指しています。

今年は初夏にオッペンハイマー氏の孫、チャールズ氏が広島を訪れ、小倉桂子氏ら被爆体験証言者と対話をしました。チャールズ氏は、「人類として原爆を含めあらゆる爆弾を使ってはならない」と訴えたそうです。彼にも広島での体験を生かし、平和の実現に向けた行動を起こしてほしいと願っています。広島大学も75+75周年を弾みとして、平和の実現につながるさまざまな取り組みを加速してまいります。

越智光夫

visit the museum in Hiroshima in order to learn some historical facts that were not depicted in the film. This would be the first step for the world to move toward realizing a peaceful future. Some of the books that portray the tragedy of the day of the bombing in Hiroshima include 'Ma no Isan [The Devil's Heritage]' by Hiroyuki Agawa, a native of Hiroshima Prefecture and a recipient of the Order of Culture. Another book is 'Chinchin Densha to Jyogakusei [The trams and female students]' by Keiko Horikawa (together with a co-author). Horikawa, a former graduate of the School of Integrated Arts and Sciences, is also a lecturer of 'Becoming a Global Citizen: Lecture by Special Instructor' at Hiroshima University. In 'The Devil's Heritage', the author describes the lives of citizens seven years after the atomic bombing and the hibakusha suffering from the aftereffects of the bombing. In 'The trams and female students', the author describes in detail the tragedy that befell the female students who were assigned to drive the trams in the city. I strongly encourage everyone, especially our students, to read one of these books. In so doing, please think about what you can do to help realize peace and try to understand the horror of nuclear weapons and the suffering of the hibakusha. Human beings have always learned lessons from their painful experiences in the past, in order to never make the same mistakes again. We have always been committed to deepening our understanding of peace. For example, the university upholds 'The Pursuit of Peace' as its first Guiding Principle; the Hiroshima University Center for Peace is engaged in fieldwork and research on peace; and students learn something from history by studying one of our compulsory subjects, such as 'Peace Science Courses' or 'Peace Lecture Marathon'. In addition, we formulated the 'President's 5 Initiatives for Peace Sciences' last May, with the aim of becoming a university that 'creates' peace. This year, Charles Oppenheimer, grandson of Robert Oppenheimer, visited Hiroshima in early summer, during which he had a dialogue with Keiko Ogura and other A-bomb survivors. Charles said to Keiko, 'As human beings, we must not use any kind of bomb, including the atomic bomb.' I sincerely hope that he will make the best use of his experience in Hiroshima to start taking action toward world peace. Hiroshima University will use the 75+75th anniversary as an impetus to accelerate various initiatives that will help to realize world peace.

Shi Mitano

広島大学の知に触れる情報誌
Hiroshima University Magazine

HU-plus
2024.08 August vol.25

【Hiroshima University】の魅力や
情報をあなたに“プラス(+)”、
【HU】とあなたが“つながる(+)”という
願いを込めて。



不死鳥のごとく戦禍から
蘇り、75+75周年を迎え
る広島大学。地域に愛さ
れ、平和を希求する大学
として羽ばたき続けます。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 CROSS TALK+
科学ジャーナリスト
元村 有希氏 +
広島大学 学長
越智 光夫
- 07 特集 特別企画
75+75周年
広島大学のこれまでとこれから
- 11 持続可能な未来のヒント
広大 もったいなれっじ
- 13 AERAが書く 研究者の素顔
- 15 HIRODAI GLOCAL
- 19 こちら広島大学創立75周年
記念事業推進事務局！
- 20 HIRO-DAI HEROES
- 21 卒業生インタビュー 私も広大です
- 23 HU-style
- 25 HU TOPICS
- 27 キャンパスNOW
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

広島大学SNS



Instagramでキャンパスの日常を
配信中



真摯に報せる、科学の真実。 100年後に輝く 自由闊達な研究を目指して。

元村 有希子氏

科学ジャーナリスト

越智 光夫

広島大学 学長

❑「文系の心」と 「理系の頭」で考える

越智_本日は科学ジャーナリストとして活躍されている元村さんに、日本の科学技術力や科学教育について伺いたいと思います。まずはジャーナリストになるまでのご経歴から。高校生のころは文章を書くのが上手という理由で「清少納言」と呼ばれていたそうですね。



元村_はい、国語がとても得意な生徒でした。ただ籍を置いていたのは国立の理系を受験するコースで、医学部を受験予定でした。受験直前になって心の病

気を治すカウンセラーを目指そうと軌道修正し、文系科目で受験して九州大学の教育学部に進みました。

越智_ご著書の中に「文系の心を持ち、理系の頭で考える」という言葉がありますが、こうした経歴から生まれた考え方でしょうか。

元村_はい。記者として大切な、些細なことも面白いがる感性は「文系の心」、分かりやすく伝える文章を書くのは理性の部分、「理系の頭」だと思います。

越智_教育学部に進学後は、どのような学生生活を送られましたか。

元村_臨床心理学を学びつつボランティア活動やカウンセリングの真似事をしていました。しかし、当時はまだ臨床心理士や公認心理師といった資格制度もなかった時代。カウンセラーとして働ける道は限られていることを知り、臨床心理学で培っ

た傾聴の姿勢と、文章力を生かせる新聞記者を目指したのです。

❑ 入念な事実確認で 研究の魅力を報道

越智_毎日新聞社に入社され、2001年には科学環境部に異動。ノーベル賞受賞者にインタビューをされたそうですね。

元村_はい。科学記者はノーベル賞発表の前後はもちろん、受賞の可能性のある研究を予想し、1年中取材をしています。印象的だった出来事は、2001年に化学賞を受賞された野依良治先生の記者会見。新人だった私は気が急いて「ずっとノーベル賞を獲りたかったそうですが、どうやって獲ら



じています。元村さんはこの点についてどうお考えですか。

元村_同意します。理由は複数あると思います。研究環境の悪化が主な原因の一つと言えるでしょう。さまざまな大学の先生が、昔より研究費の獲得に忙しいとおっしゃっています。また、若手研究者の雇用体制が整っていません。定年延長により正規雇用のポストはなかなか空かず、若手は非正規の職に就くしかない。悲観して、博士課程

れたのですか」と失礼な質問をしてしまいました。すると先生は「ノーベル賞のための研究ではない」と私の質問を戒め、返す刀で、「30年間でノーベル賞受賞者を20人輩出する」など、成果ばかり重視する当時の政府方針を批判し始めたのです。当初の予定と全く違う会見になってしまったのですが、後で他社の方々から「日本の研究環境のあり方について面白い話が聞けた」との声もいただきました。

越智_ほかに印象深い取材はありましたか。

元村_ニュートリノという素粒子の研究で2002年にノーベル物理学賞を受賞された、小柴昌俊先生への取材です。「こんなに面白い研究はない」とばかりに目を輝かせて話す様子を見て、研究のロマン、そして科学者の情熱に胸を打たれたのを覚えています。

越智_科学者の熱い思いというのは素晴らしいですね。しかしながら、目覚ましい科学の進歩が報道される中で、真偽の不明な報道が世間を騒がせることもあります。誤報対策はどのようにされているのでしょうか。

元村_大切なのは、慎重にほかの複数の専門家にも取材をすることです。また毎日新聞の社内には、記事内容やその情報源について、入念に事実確認を行う校閲のプロ集団がいます。昨今では事実確認の不十分なネットニュースも氾濫しているため、根気強い検証の重要性を世間に伝える意味でもファクトチェックを大切にしています。

❑ 科学技術力向上に 不可欠な視点とは

越智_現在、日本の科学技術力は低下していると感じています。元村さんはこの点についてどうお考えですか。



サイエンスカフェなどの科学コミュニケーション活動はライフワーク

科学ジャーナリスト

元村 有希子 もとむら ゆきこ

福岡県出身。九州大学教育学部卒業後、毎日新聞社入社。科学環境部に配属され、2017年から科学環境部長、2019年から論説委員。2006年第1回科学ジャーナリスト賞受賞。2024年春から同志社大学特別客員教授として、科学コミュニケーションを教えている。

広島大学 学長

越智 光夫 おち みつお

愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。

に進学する学生自体が減っています。

越智 企業が研究所を閉鎖し、研究職雇用が減ったのも一つの理由ですね。また、国も早期に成果を求める声に押され、短期的に成果が出そうな研究テーマへ多くの資金投入を招かざるを得なくなりました。その結果、費用を獲得しやすいようなテーマに研究人材が集中し、自由で画期的な研究の数が減ってしまっています。

元村 私が見てきたノーベル賞受賞者の方々は若いころ、のびのびと自由に研究をされていたようです。成果を急がされることなく純粋に研究を追究できる環境が、ノーベル賞という結果につながっているのですね。

越智 長い目で見ると、すぐには成果が出ない研究にも投資してじっくり待つのが大切ですね。また最近は人工知能の使い方がたびたび議論されるように、科学技術の倫理的な運用が重視されています。より持続可能な社会のためにどうすべきか、考えをお聞かせください。

元村 難しい問題です。悪用を防ぐために法規制を加えるのも一つの手ですが、イノベーションの阻害にもつながってしまう。そのため、まずは自分の研究が社会環境や平和にどのような影響を及ぼすかを考えられる科学者を育てなければなりません。

越智 広島大学では、全ての新生入生に「平和科目」の受講を課し、戦争や飢饉について学び、平和を希求する大切さを広く共有しています。原子爆弾投下後の焼け野原に建った本学だからこそ、平和のための科学を求める研究者の育成制度があるべきです。そこでも成果を急ぐのではなく長期スパンで進め、「100年後にも世界で光り輝く大学」を目指しています。

元村 平和は何より大切です。平和を求める研究者の育成にぜひ取り組み続けていただきたいと思います。

✕ 専門家のみならず あらゆる人に開かれた学びを

越智 トランス・サイエンスという、科学が問うことはできますが、科学のみでは解決できない問題があります。例えば、科学者は気候変動のメカニズムや気温上昇の予測をもとに地球温暖化問題を提起しますが、原因となる温室効果ガスの削減については政治をはじめとする他分野と連携して解決しなければなりません。広島大学では、大学院の統合や、全研究科が連携する「大学院スマートソサイエティ実践科学研究院」という新たな研究科等連携課程実施基本組織を通じて、この課題に複眼的にアプローチをしています。

元村 とても良いと思います。大学院は本来専門性を高める役割を持つのですが、トランス・サイエンスの諸問題を解決するには、専門性を持ちながら俯瞰できる人が必ず必要になりますから。

越智 縦に深く掘っていく研究と横に広げていく研究、どちらも大切です。

元村 大学進学率が5割を超えた今、大学の役割も変わってきています。専門家を育てるだけでなく、いつでも、誰に対しても開かれた学びを提供していく大学を作っていただきたいです。

越智 そうですね。科学は日進月歩ですから、大学で身に付けた知識は数十年経ったら通用しない場合もある。誰もが学びたいと思った年齢で学び直せる仕組みが重要です。加えて地方の国立大学は、周辺地域に与える影響が大きく、主体となって地域活性化に貢献していく役割も担っています。広島大学は地方自治体や地元企業と連携し、地域の活性化を目指す「Town&Gown構想」に取り組んでいます。

元村 受験生の東京一極集中が問題となる中、地域と連携した取り組みや、その地域ならではの研究を打ち出す広島大学に期待します。

越智 最後に、学生の皆さんにメッセージをお願いします。

元村 大学は研究のための施設が整っていて、質問できる専門家がいて、挑戦を支援してくれる制度がある、とても恵まれた場だと思います。今いる環境を最大限に活用して経験を積み、人生の糧としてほしいと思います。

もっと Plus な 広大

元村有希子氏と越智学長の対談内容に関連して、広島大学をもっとよく知るためのTOPICSを紹介。あなたにも社会にもプラスになる大学の取り組みや魅力をお届けします。

PLUS [Nobel Prize]

世界を驚かせた研究を解説 未来の科学者に新たな夢と情熱を

広島大学では、世界最先端の研究を担う科学者を招き、講演などを行っていただく「知のフォーラム」や「広島大学講演会」を継続的に開催しています。2011年から2024年4月まで講演いただいたノーベル賞受賞者は、山中伸弥教授、吉野彰教授など延べ13人。直近では

第5回「知のフォーラム」(2021年)に、前年にノーベル生理学・医学賞を受賞したハーベイ・オルター氏をお招きしました。世界トップレベルの研究者から直接お話を聞ける、またとない機会です。受賞者による講演会以外に、その年のノーベル賞研究の解説会も随時開催。科学者を目指す学生たちに、知を探究する姿勢が学べ、研究に対する意欲を高められる機会を提供しています。



オンラインで行われた
第5回「知のフォーラム」の様子

PLUS [Researcher Support]

科学技術・イノベーション創出の 担い手となる人材をサポート

広島大学では、博士課程後期学生をサポートする3つの制度を設けています。「大学院リサーチフェローシップ制度」では情報科学やサステナビリティ学など特定分野の優秀な学生を、「創発的次世代研究者育成・支援プログラム」ではSDGs達成に貢献する学生を支援。



さまざまな段階や環境にある学生が
研究に打ち込めるよう、支援します

PLUS [Peace Education]

「平和」とは何か 新入生全員に追究する機会を

広島大学の理念「平和を希求する精神」を軸に、「平和科目」を開講しています。学生の声も後押しとなり、2011年度から学部的全新入生を対象に選択必修としました。戦争・紛争、貧困など、多様な観点から絶えず平和について考えることを通じて、豊かな人間性を培います。

Voice 学生たちの 真摯な思いが 平和への第一歩

受講者のレポートからは、平和の実現は容易でないという理解しつつも、できることを模索する学生たちの姿勢が伝わってきます。授業を機にヒロシマの地に思いを馳せ、平和についてさらに思考を深めてくれることを期待しています。

平和センター長 平和教育部門長
川野 徳幸 教授



前史75年

白鳥学校をはじめ、9つの前身校が設立されました。これらの学校は全国有数の教員養成の拠点として優れた教員を輩出すると共に、学部や大学院での教育にも注力しました。

白鳥学校(広島師範学校の前身)の創設



広島県広島師範学校(1880年)

新制広島大学の開学

国立学校設置法が公布施行され、各都道府県に国立大学が設置されました。前史の諸学校を包括し、新制広島大学が誕生しました。



開学式正門アーチ(1950年)

1902

広島高等師範学校の創設

東京に次ぐ2番目の高等師範学校として設置され、「教育の西の総本山」とも称されました。

1874

1929

1949
75th

1982

2004

2021

2024
150th

広島文理科大学の創設

多くの教員や研究者を輩出。また、当時注目されていた波動幾何学の実績により、理論物理学研究所が附置研究所として設置されました。



広島文理科大学本館(1930年)

1945

原子爆弾の投下

教職員、学生・生徒・児童のうち少なくとも682人が12月末までに亡くなりました。

1973

統合移転を正式決定

キャンパスの統合・拡大を目的として、広島県賀茂郡西条町(現:東広島市)への移転を決定しました。

広島大学75年

時代の流れに沿って、キャンパス移転や学部学科の新設、研究科の再編を実施してきました。グローバル人材の育成や地域活性化など教育・研究を基盤とした取り組みを推進し、持続可能で平和な社会の実現に貢献します。

工学部が

東広島キャンパスに移転

他学部在先駆けて、工学部が東広島キャンパスへの移転を完了。しかし、インフラ整備など諸問題の解決に時間を要し、大学全体の移転完了には長い歳月が費やされました。



移転直後の工学部(1983年)

1995

東広島キャンパスへの統合移転が完了

国立大学法人 広島大学が設立

2014

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」(トップ型)に採択

世界TOP100の大学を目指し、教育・研究の双方から大学改革を行い、グローバル人材の持続的な輩出を目指します。

2018

情報科学部・総合科学部国際共創学科を設置

新たに情報科学部と総合科学部国際共創学科を設置し、12学部27学科を擁する総合大学に成長。デジタル技術を用いてDXを推進する人材やグローバル社会で活躍する人材を育成します。

2013

文部科学省「研究大学強化促進事業(RU事業)」に採択

世界水準の優れた研究活動を行い、世界TOP100大学入りを目指します。

2019~2020

大学院を4研究科に再編

総合的な視点を研究に取り入れるために組織を再編し、人間社会科学研究科・先進理工系科学研究科・統合生命科学研究科・医系科学研究科の4研究科を設置しました。

75+75
記念事業

周年を盛り上げる！ 記念事業が進行中

広島大学創立75+75周年を大学全体で盛り上げるため、さまざまな記念事業を実施しています。
9月21・22日には「広島大学in東京2024」、11月2・3日には東広島キャンパスで「記念式典・記念事業」を開催予定。ぜひイベントにお越しください。
▶詳しくはP19

カーボンニュートラル× スマートキャンパス5.0宣言

2030年までに、学内で使用するエネルギーのカーボンニュートラル化と、高規格5Gネットワークを基盤としたスマートキャンパス5.0の実現を宣言。キャンパスと周辺地域のまちづくりを推進する「Town & Gown構想」と共に、産官学が連携して新たな取り組みを推進します。



MIRAI CREA(ミライクリエ)が竣工

グローバルな交流を活性化し、イノベーションの創出を促す拠点として、「フェニックス国際センターMIRAI CREA」が東広島キャンパスに誕生。

2022

文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」に採択

「持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点」が、中四国地域の大学で初めてWPIに採択。分野融合的研究から持続可能な社会の実現に貢献します。

2023

「平和を創る」5つの事項を策定

越智学長は「President 5 Initiatives for Peace Sciences-新しい平和科学(安全・安心を実現する「創る平和」)-」を策定。今後取り組むべき5つの重点項目を掲げ、「平和の大学」を目指します。

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択

同年、「放射光による物質の視える化技術を核とした半導体・超物質及びバイオ領域融合型産業集積エコシステムの実現」の提案が採択されました。

100年後にも世界で光り輝く大学へ

特集 | 特別企画

75+75周年 広島大学のこれまでとこれから

2024年11月、広島大学は開学から75周年を迎えます。前史75年を加えると、150周年に当たる節目の年です。

数字で見る 広島大学の変化

1949→2024



学部学科数

6学部20学科

12学部27学科

学生数

1296人

うち女性学生86人(6.6%)
※1年生のみ

15858人

うち女性学生6087人(38.4%)



留学生数

0人

1951年に初めて1人受け入れ

1831人



クラブ・サークル数

9団体

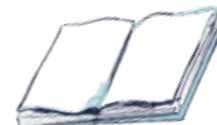
288団体



図書館蔵書数

約25万冊

約341万冊



高垣 広徳 東広島市長から お祝いのメッセージ

広島大学創立75+75周年誠におめでとうございます。

東広島市は1974年の誕生以来、50年の歴史を広島大学と共に歩んでまいりました。

今後も、Town(=まち)とGown(=大学)による次世代学園都市構想を実現するため、未来に向かって共に歩むパートナーとして、広島大学のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。



宮迫 良己 さん

1982年 工学部卒業

株式会社中国放送 代表取締役社長

創立75周年、そして開学150周年誠におめでとうございます。
原爆の惨禍から立ち上がり、復興と再生のシンボルとして歩んでこられた歴史は広島における教育の土台であり、卒業生として大変誇らしく感じております。
さらなる100年に向けて、ますますのご発展を祈念いたします。



堀川 恵子 さん

1992年 総合科学部卒業

ノンフィクション作家

「最近、広くなって元気いいね」。うれしい声をよく聞きます。日本近代史の夜明けに産声をあげ、20世紀最大の出来事と言われる原爆投下の惨禍からも蘇り、今や国際的な学園都市に。150年、先人たちの不屈の歩みに感謝の花束を！



75+75 anniversary 私と広島大学

150年分のおめでとうとありがとう

広島大学にゆかりのある著名人の方々から
75+75周年を祝うメッセージをいただきました。

椋田 昌夫 さん

1969年 政経学部卒業

広島電鉄株式会社 代表取締役会長

広島大学150周年を心からお祝い申し上げます。
現在、広島大学150周年を記念してオリジナルデザインのラッピング電車とバスが広島の街を走っております。周年事業を多くの方々に周知することができたのではないかと考えております。
広島大学が躍動し、これからも地域と共にさらなる発展を遂げることを願っております。



山下 良則 さん

1980年 工学部卒業

株式会社リコー 代表取締役会長

150周年おめでとうございます。

私が入学した1976年当時、まだ大学は千田町にありました。大学時代に「よか友、よか学び、よか土地」に恵まれ、当時の経験と知見が現在の私の生き方のベースとなっています。先日、東広島キャンパスにて講義の機会を頂きました。多様なあふれる新入生の質問に、頼もしさを感じながら明るい未来を見たような気がしています。これからも、広島大学のますますのご発展を祈念しています。



南 利幸 さん

1988年 総合科学部卒業

1990年 大学院生物圏科学研究科修了

南気象予報士事務所 気象予報士／
気象キャスター

大学歌に「真をぞきわめん望みあり」との一節があります。混沌とした時代の中、真剣に真実を追求し本物を目指す。これから100年先も確固たる信念を持ち続け、世界の中心で真なる光を放つ広島大学になることを望みます。



久保田 夏菜 さん

2009年 文学部卒業

フリーアナウンサー

広島大学開学150周年、誠におめでとうございます。
私は約20年前に文学部に入学、東広島キャンパスで過ごした4年間は青春そのものでした。
卒業した今も、そのご縁が新たな出会いをつながけていて、つながりに助けられ、感謝する日々です。
今後も地域に愛され、信頼される大学として続いていくことを願っています。



Hint 15

ゲノム編集の費用・技術の課題を解決する

片山 翔太 特任准教授

【PROFILE】かたやま しょうた
ゲノム編集イノベーションセンターに所属。合成生物学を専門領域とし、純国産ゲノム編集ツールの開発および産業利用に向けた研究をしている。



【世】界初、廃れたゲノム編集技術の高機能化

細胞中の特定のDNA配列を認識して切断する、ゲノム編集。遺伝子細胞治療などに有効な技術ですが、高額なライセンス料が研究開発を妨げている一面があります。主なゲノム編集ツールのうち、現在よく使われる2つは基本特許の有効期限が切れておらず、研究開発・産業利用には高額なライセンス料が必要です。そこで私は、期限の切れた「Zinc Finger Nuclease」というツールに目を付けました。Zinc Finger Nucleaseは特定のDNAを認識して結合するZinc FingerとDNAを切断する酵素を組み合わせる技術ですが、標的のDNA配列に合ったZinc Fingerを作製するのに時間がかかり、成功率も低いことから現在では廃れてしまっていました。

今回私が開発したのは、Zinc Fingerの作製期間を2カ月から3日に短縮する技術です。さらにAIを用いてZinc FingerとDNAの結合をモデリングし、狙ったDNAの切断効率を約5%上げることに成功。世界で初めてZinc Finger Nucleaseを高機能化した例となりました。

【安】価なライセンス料はアカデミアならではの

Zinc Finger NucleaseはZinc FingerとDNAの切断酵素を組み合わせる技術。実はその切断酵素を使用するにもライセンス料がかかるのですが、広島大学では以前ND1という切断酵素を開発して特許を取得しています。そのため、完全にライセンスフリーかつ純国産のゲノム編集ツール「Zinc Finger-ND1」を作製することができるのです。

ゲノム編集は遺伝子細胞治療のための強力なツールです。疾患の原因となるDNA配列を取り除いたり壊れた遺伝子を修復したりすることで、遺伝性疾患の治療が可能となります。現在私たちは、高機能化したZinc Finger-ND1

を用いた遺伝子細胞治療の実現を目指して研究を進めています。ライセンスフリーのZinc Finger-ND1によって自分たちで研究開発が進められるようになったことはもちろん重要なのですが、特許取得後は現在使われているほかのゲノム編集ツールより格段にライセンス料を抑えて使用できるようにすることも考えています。これは利益第一ではない、大学という機関だからこそできること。ライセンス料が下れば遺伝子治療用製剤の開発コストや薬価を抑えることができ、研究も活発になります。ひいては、より多くの人の治療に貢献し、健康寿命を延ばすことにつながるでしょう。



細胞を培養する様子。
種類によって培養液(培地)を使い分ける

【広】大

もったいなれっじ

【持】続可能な

未来のヒント

広島大学の研究室では、SDGsの達成に貢献するさまざまな知が日夜生まれています。読めば必ずためになる、こんなに魅力的な研究を知らないなんて、もったいない！



今回は、最先端のゲノム編集技術とオペラ・音楽教育研究を特集。

未来の患者を救うため、未来の教育を変えるためにどのような研究が行われているのでしょうか。



オペラ実習で「こうもり」を公演。
より良い音楽のため、本番直前まで考え続ける

16

音楽を通じたインクルーシブ教育を実現する

大野内 愛 教授

【音】楽が子どもたちをつなぐ鍵に

私の専門の一つは音楽教育学、特に音楽を通じたインクルーシブ教育です。インクルーシブ教育とは、子ども一人一人が自身の特性に合った環境で、障がいの有無などの違いを超えて一緒に学べる教育のこと。私はイタリアの音楽教育を調査する中で、障がいがある生徒と健常者が音楽を中心に共に学ぶ中学校に出会いました。そこでは生徒が皆自分の特性に合った楽器を使い、全員で演奏を楽しんでいました。

一方、日本の

音楽の授業は障がい者と健

常者が共に学んでいるとは言い難い状況です。一朝一夕にインクルーシブ教育を行うことはできませんが、少しでも近づくために、私は有効な授業や指導のあり方を研究しています。楽器を用いたアンサンブルがその鍵となるでしょう。ほとんどのアンサンブルは複数のパートに分かれて演奏するものなので、教員が個人をよく見て特性に合った楽譜と楽器を用意できれば、皆がそれぞれの役割を理解して平等に参加できます。言語コミュニケーションの上手下手にかかわらず、一つの音楽を演奏する喜びでつながれるのも素晴らしい点です。

【総】合芸術オペラで未来の教育者を育てる

音楽教育学の研究以外にもオペラ歌手として声楽研究を行い、オペラ実習の授業を担当しています。オペラは音楽以外に文学・美術・演劇などの要素を含んだ総合芸術です。実際にステージに立つときは、演出家や脚本家とそれぞれの専門的観点から意見を交換し、より良い解釈や表現方法を研究します。実習の授業では学生に表現の意味を考えて多角的な視点を得るもらうために、教えるのではなく問いかけることを基本として進めています。自身の指導が学生にどう伝わるか、成長に生かされているかについても研究し、指導法を模索しているところです。

オペラを制作する際、学生たちが担う役割は

役者・照明・衣装などさまざま。一人一人の特性に応じて役割を決め、協働して舞台を作りあげます。「それぞれができることを行い、一つの芸術を完成させる。その喜びを通してつながる」というのは、私が理想とするインクルーシブ教育に通じます。

私が教える学生のうち、半数以上が将来音楽の先生になります。学生に接するときは個人の適性に合わせた指導を心掛けています。また、自身のインクルーシブ教育研究について言葉を尽くして伝えていくことが、将来的に全ての子どもたちが共に学べる世界につながればと願っています。



【PROFILE】おおの うち あい
大学院人間社会科学研究科音楽文化教育学領域に所属。声楽と音楽教育を研究しながら、オペラ歌手として多数の舞台にも出演している。

AERAが書く 研究者の素顔

研究者は普段どのような一日を送り、研究に取り組んでいるのか。学問との出会いや、探究の原動力は何だったのか。人物、スポーツ、文化、政治、経済、事件…幅広いジャンルを取材するAERA記者が研究者の素顔に迫ります。

【AERA】
「時代」をキーワードに独自の切り口で描くニュース週刊誌。国内外の重大ニュースから身の回りの小さな出来事まで「時代」を敏感にキャッチし、独自の視点で掘り下げた記事をお届けしています。

「夢の光」放射光を使って
電子の動きを可視化し
新物質の開発につなげる。

放射光科学研究所
島田 賢也 所長・教授



しまだ・けんや／1966年、沖縄県生まれ。1991年、東京大学理学部物理学科卒業。1996年、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了、広島大学放射光科学センター着任。2010年、教授、2017年、広島大学放射光科学センター長。2024年4月、放射光科学センターが放射光科学研究所に改組、所長に就任。

紫外線域を利用する 世界最高水準の実験施設

ほぼ光の速さで運動する電子が、磁場によって進行方向を変えるときに発する光を放射光という。この放射光を物質に照射したときに放出される電子の振る舞いを可視化すれば、その物質の性質を詳しく知ることができる。消費電力の少ない電子デバイスの材料や新しい超伝導体の開発にもつながることから、放射光は「夢の光」と言われる。

広島大学放射光科学研究所は、国がつくった5つの放射光実験施設として唯一大学に附置されている。規模こそ小さいものの、波長が長く、高分解能の紫外線域の放射光を使った実験施設として、世界トップレベルの研究を行っている。

「固体だけでなく、DNAやタンパク質といった生体物質の解析もできるのが当研究所の最大の特色です。溶液中の生体物質の立体構造を解析する手法を世界で初めて開発しました」

島田所長は主に、放射光を使って磁石になる物質（磁性体）や超伝導体、トポロジカル物質を研究する。トポロジカル物質は、電流を流しても発熱が少ない物質のことで、省エネ材料としての活用が期待されている。

「MRI（磁気共鳴画像）やリニアモーターカーなどに応用されている超伝導体は、非常に低い温度まで冷却すると電気抵抗がゼロになります。無駄なく電気を流せるため、二酸化炭素など温室効果ガスの排出をゼロにするカーボンニュートラルにも寄与する研究です」

不思議に思う気持ちが 研究の原動力になる

島田所長は子どもの時から磁石や化石などに興味があったという。高校2年生の時、内閣総理大臣オーストラリア科学奨学生としてシドニー大学を訪れたことが、本格的に科学者の道を志すことにつながった。大学院時代は磁石の電子構造を研究した。

「磁石をはじめ、不思議だなと思う物事を理解することにずっと興味がありました。自分が知らない世界を理解できた時の満足感や納得感が研究を続ける原動力になってきたような気がします」

AIの発達により研究は効率化されてきた。しかし、「人の好奇心や、物事を不思議に思う

気持ち」が科学の出発点になる」との思いは今も変わらない。学生に強調する点でもある。

放射光科学研究所は世界最高レベルの実験施設と

して注目され、これまでに海外86機関、国内82機関と共同研究プロジェクトの実績がある。ただ、1997年の稼働からすでに27年が経過し、世界最高水準の研究を維持するためには施設の高度化が不可避になってきた。そこで、実験施設の放射光源の強度を100倍に高め、24時間自動運転を可能にする計画が今、進められている。放射光源の強度を100倍にすれば、測定にかかる時間は単純に100分の1で済むという。2、3年後には実現したいと島田所長は話す。

これまでの研究成果を 社会に還元する役割を果たす

「知的探究心を原動力とする理学系の研究は、基礎的な研究が中心になりがちです。しかし、放射光科学研究所はこれまで、省エネやカーボンニュートラルに寄与する新しい研究分野を切り開いてきました」。今後は学術研究の成果を社会に還元する役割も果たしたいと言う。

日々の研究や国際会議への出席などで忙しく、「今は趣味のピアノを弾く時間も取れない」と笑う。その代わり、妻と娘が時折開く演奏会を裏方で支える。研究の合間に広く自然豊かなキャンパスを歩くのがささやかな息抜きだと、世界屈指の研究者ははにかんだ。



1 着任してからの研究ノートは100冊を超える

2 小学校から高校2年生までピアノを習っており、休日は音楽を楽しむ

ポストSDGs時代の平和と持続可能性を議論 第3回NERPS国際会議を開催

研究・政策対話の促進と
国際的なネットワークの
構築を目指して

広島大学FE・SDGsネットワーク拠点
(NERPS:The Network for Education
and Research on Peace and Sustainability)
は、3月6日から9日にかけて、「2024年平
和と持続可能性に関する国際会議(The
NERPS 2024 Conference)」を開催しま
した。今回で第3回となる本国際会議は、
ポストSDGsの平和と持続可能性に関す
る研究・政策の促進、世界的な教育研究
拠点の構築を目指して毎年実施されてい
ます。

今回は、世界29カ国における100の大
学、研究所およびNGOから、175人の研究
者や学生たちが参加。3月6日に東広島芸
術文化ホールから行われた開
会式・基調講演は、東広島市
民にも公開されました。

開会式では、金子慎治理事・副学長(グ
ローバル化担当)が国際会議に寄せる期
待を述べ、NERPSの取り組みとして新し
い学術誌を発刊する予定であると発表。
会期中は「気候変動が平和に及ぼす影
響」「環境に配慮した平和構築」など、平
和と持続可能性の両面に焦点を当てたパ
ネル討論やワークショップなどが開かれ、
口頭発表の数は180にも及びました。

会議後のアンケートでは、「研究発表や
ネットワーク強化の場として有用だった」
といった声が寄せられ、回答者の95%が
会議に満足と回答しました。



優れた論文執筆者・口頭発表者を表彰

今回は、2025年3月5日～7日にフィリ
ピンのデ・ラ・サール大学で開催。佐藤雅
俊NERPS拠点長補佐は、ポストSDGsを
主導していくために必要な教育・研究の
輪が広がっているという実感を語り、「参
加者の所属先である大学・研究所の数を
さらに増やし、協賛者の発掘に力を入れ
たい」と次回会議への意欲を示しました。



第6回 異文化交流会を 行いました 広島の味を楽しむ！

地域のソウルフードを通じて
深まる交流

5月22日、広島大学東広島キャンパス
にて異文化交流会が開催されました。本
イベントは、留学生・学生・教職員が飲食
を共にして交流できるよう、2016年から
開始。6回目の開催となる今回のイベン
トでは昨年度G7広島サミットで提供さ
れた食事が振る舞われました。留学生に
特に人気だったのは広島のソウルフード
である、お好み焼きともみじ饅頭。どち
らも広島県内の企業から、ハラル認証
(イスラム教の戒律に則って調理・製造



された商品であるという認証)を受けた
ものを提供していただき、ムスリムやベ
ジタリアンの参加者を含め皆で味わうこ
とができました。参加者からはおもてな
しへの感謝の言葉と、「異なる背景を持
つ方々との交流ができてうれしい」と
いった声が寄せられました。

地球規模のトピックから地域密着のエピソードまで、
広島大学の取り組みをGLOBAL(国際)とLOCAL(地域)の両面から
紹介するコーナーです。

広島大学75+75周年を記念して 広島東洋カープの公式戦に協賛

広大関係者が一丸となり
試合を盛り上げる

広島大学は75+75周年記念事業の
一環として、広島東洋カープに協賛。5月
17日、カープスponsoredゲーム「広島
大学75+75周年これからも広島ととも
に!フェニックスナイター」を開催しまし
た。試合は、広島東洋カープvs読売ジャ
イアンツ戦。2対0でカープが勝利を収め
ました。

当日の観戦チケットの
学内応募倍率は約6倍。
当選した約250人の在
学生・教職員らが観戦
し、大学病院から招待し
た小児患者さんとそのご家族の姿も見
られました。皆でお揃いの本学オリジナ
ルTシャツを



着用し、一
体感のある
応援でカー
プの勝利を後
押ししました。
試合前には抽選
で選ばれた学
生が練習見
学ツアーに参
加。間近で見
る打撃練習の迫
力に、感動の
声が止みません。
ほかに

も球場内で広島大学
75+75周年のコー
マーシャルが流
れたり、教育学部音
楽文化系コース
「広大オペラ※」が
国歌を斉唱した
り、学生たちが広島東洋カー
プ戦の名物であるCCダンス
を披露したりしました。始球

式は、2023年度版「アジ
アの科学者100人」に選
ばれた片山春菜助教(大
学院先進理工系科学研
究科)が登板。キャッ
チャーミットにボールを届けきった片山
助教は、「とても緊張しましたが、良い経
験になりました」と笑顔で語りました。

広島大学の魅力たっぷりの
PRブースに観客が集う

当日、球場内には本学のPRブースを
設置。一角では「75+75広島大学の歴
史展」として、前身校などの写真を紹介
しました。特ににぎわいを見せたのは、
栗田雄一教授(大学院先進理工系科学
研究科)が開発した体操支援モバイルア



背中には
「150th」の文字が輝く

プリの体験コーナー。得点や順
位を上げようと何度も挑戦する
方が多く、100人以上が訪れ
ました。「研究室スタッフや学
生にとって非常に貴重な経験に
なった」と栗田教授は語りました。
また、マスコットキャラクターのひろ
ティーも大人気。多くの観客が記念撮影
を楽しんでいました。

「試合前のイベントやPRブース、テレ
ビ中継、CM
放送など盛
りだくさんの
内容に、多く
の方から『貴
重な経験』『
楽しかった』
と喜んでいただきました」と語るの
は、創立75周年記念事業推進事務室で
主査を務める松原哲さん。世代を問わず
県民に愛される広島東洋カープのよう
に、より一層地元を盛り上げていく広島
大学の今後にご期待ください。

※「広大オペラ」は、教育学部音楽文化系コースの専門教育
科目「オペラ実習」の教員・履修者の総称です。

試合の様子はテレビでも中継

LOCAL



鄭 今嵐 さん
(チンラン・チェン)

総合科学部特別聴講学生

出身：台湾

留学期間：10カ月(2023年10月～2024年8月)

留学体験記

留学で磨いたスキルと
身に付けた自信で
コミュニティの懸け橋になりたい

台湾の大学で日本語を専攻。現地で実践的に学びたいと考え、留学を決めました。

広島大学を選んだのは、自然豊かなキャンパスと世界中から集まる留学生との交流が魅力的だったからです。留学が始まると、予想以上に多くの異文化交流がキャンパスのあちこちで行われていて驚きました。故郷を離れて不安ばかりだった私も、このような環境で友人や先生方のサポートを受け、次第にさまざまな活動に参加したり、活動のリーダーを務めたりできるように。大きな自信を得ることができました。

総合科学部で私は人文科学と科学が統合された科目を履修しており、専門以外の分野にも目を向けることができました。中でも観光学との出会いは、観光産業における語学力と文化的知識の重要性に気づき、自身の進路の可能性を広げるきっかけになりました。卒業後は大学院で言語と文化についてさらに深く学び、観光を通じて地域コミュニティ間の懸け橋となることを目指します。

**I want to bridge communities
with the skills and confidence
I acquired while studying abroad**

I majored in Japanese at a university in Taiwan. I decided to study abroad because I wanted to learn practically in a local environment. I chose Hiroshima University because of its attractive nature-rich campus and the opportunity to interact with international students from around the world. When I started my study abroad program, I was surprised by the abundance of cross-cultural exchanges happening all over campus. I was initially anxious about being away from my hometown, but with the support of friends and teachers, I gradually began participating in various activities and even took on leadership roles. I gained a great deal of confidence. In the School of Integrated Arts and Sciences, I take courses that integrate the humanities and sciences, allowing me to look at fields outside my specialization. Among other things, my exposure to tourism studies helped me realize the importance of language skills and cultural knowledge in the industry and expanded my career possibilities. After graduation, I plan to study language and culture more deeply in graduate school, with the goal of becoming a bridge between local communities through tourism.

**地域と共に生き、
地域を盛り上げる
広島大学と広島電鉄**

1月15日、広島電鉄株式会社千田車庫で「広島大学オリジナルデザインラッピング電車・バス」のお披露目式が開催されました。本プロジェクトは75+75周年事業の一環として広島電鉄と協働。路面電車とバスを広島大学オリジナルのデザインでラッピングし、2024年12月末まで広島の街(主に広島駅～広島港間)を走らせます。

現在の東千田キャンパス前「日赤病院前」電停は以前「広島大学前」と呼ばれていたなど、広島大学と広島電鉄の間には昔からのご縁があります。「広島電」の名で親しまれ

ている広島電鉄と共に地域を活性化することを願って、プロジェクトが立ち上がりました。

車両お披露目の式典には広島電鉄代表取締役社長の椋田昌夫氏、イラストレーターのカミガキヒロフミさん、デザイン案作成者ほか多くの関係者が出席しました。越智学長は「世界から選ばれ、地域に愛される大学を目指している。皆さんと広島を盛り上げたい」

と挨拶。広島大学出身の椋田社長は「このデザインには母校・広島大学の職員や学生の思いが込められている。広島の盛り上げに参加できて嬉しい」と笑顔で語りました。

**学内外の協力を得て完成した
フルラッピング車両**

車両ラッピングのデザインは学内から募集。電車デザイン考案者の吉朝開さん(理学部4年)は「使用した緑、銀、金、赤の4色は広島大学の学章とひろティーをイメージ。街に溶け込みつつ人目を引くデザインで、少しでも話題になることを願っています」と話し、バスデザイン考案者の引地奈津子さん(広島大学職員)は「大学を象徴するフェ

ニックス(不死鳥)マークをあしらひ、力強さや躍動感を表現しました。広島大学をあまり知らない方にも興味を持ってもらえるきっかけになれば」と思いを語りました。

車両フルラッピングの実現にあたってはクラウドファンディングを実施しました。寄付をした卒業生や地域の方々から寄せられたのは、街を走る電車とバスを心待ちにする声。創立

75周年記念事業推進事務室副室長は「走行開始後はSNSなどでの反響もあり、多くの方々の目に留まっていると実感しています」と手応えを感じていました。

**広大×広電の
思いを乗せて
街を駆け巡る
ラッピング車両**



今後はラッピング車両のフォトコンテストや、11月2日、3日の「創立75+75周年記念式典」でキャンパス内にラッピングバスを走らせることを検討中。そのほか式典に向けて、広島大学の伝統と新たな未来を感じさせる多彩な記念事業も展開予定です。

※ 文中の肩書きはお披露目式当時のものです。

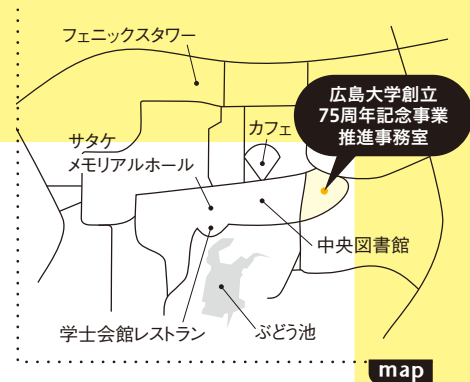


デザイン考案者の引地さん(左)、吉朝さん(右)

広島大学 創立75周年記念事業 推進事務室！



広島大学を日々
支えるオフィスや
センター。その
業務の内容に
迫ります。



Q1 広島大学創立75周年記念事業推進事務室の 活動内容を教えてください。

A. 広島大学は2024年に創立75+75周年を迎えます。私たちは周年記念事業を盛り上げるための企画を検討し、実施しています。職員3人が専任として従事するほか、総合

戦略室、基金室、教育室、国際室、学術・社会連携室、財務・総務室から併任スタッフが参画。全学が一体となって協力し、事業を運営している点が特徴です。



周年記念事業を盛り上げる。

学内外と連携しながら

大学が一体となり、

Q4 今後の展望を 教えてください。

A. 9月21・22日に、「広島大学in東京2024」を開催します。参加される方々に広島大学の取り組みをより深く知っていただける企画の考案や広報に力を入れていきます。また、11月2・3日には「広島大学創立75+75周年『記念式典・記念事業』」を実施予定。大学祭も同日開催され、多くの人々にぎわうでしょう。ラッピングバスをキャンパス内で走らせるなど、室員全員でアイデアを出し合い、記念事業を盛り上げられるよう、計画したいと思います。



2024 9/21-22 広島大学in東京2024	
特別講演者	21日 福岡 伸一氏(生物学者/作家) 22日 柳沢 正史氏(睡眠学者) ティムラズ・レジャバ氏(駐日ジョージア特命全権大使)
学内講演者	21日 片山 春菜氏(大学院先進理工系科学研究科 助教) 堀内 浩幸氏(大学院統合生命科学研究科 教授) 22日 澤井 努氏(大学院人間社会科学研究科 特定教授) 楯 真一氏(大学院統合生命科学研究科 教授)
会 場	一橋講堂(東京都千代田区)
2024 11/2-3 広島大学創立75+75周年「記念式典・記念事業」	
特別講演者	2日 エマニエル・トッド氏(歴史人口学者) 山極 壽一氏(総合地球環境学研究所 所長) 3日 中満 泉氏(国連事務次長・軍縮担当上級代表)
学内講演者	3日 藪田 ひかる氏(大学院先進理工系科学研究科 教授) 高橋 徹氏(大学院先進理工系科学研究科 特定教授)
会 場	東広島キャンパス サタケメモリアルホールほか

詳細は
こちら



詳細は
こちら



Q2 これまでに反響があった 事業を教えてください。

A. 5月に開催された「2024ひろしまフラワーフェスティバル」のパレードに、「広島大学 創立75+75周年記念パレード」と銘打ち、初めて参加しました。約300人の在学生や教職員、広島大学にゆかりのある多くの方が、お揃いのグリーンのTシャツに身を包み、平和大通りを行進。広島大学の歴史と挑戦を続ける姿勢を多くの皆さまに伝えと共、本学をより身近に感じていただく機会となりました。

Q3 業務のやりがい は何ですか？

A. 周年事業というこれまでにない貴重な経験ができることです。海外を含め学内外の多くの方と協力して新規企画を進めていくのは、通常業務とは異なり苦労する点もあります。しかし、11月の式典という明確なゴールに向かい、着実に取り組めることにやりがいを感じます。また、周年事業に参加された方が喜ぶ姿を目の当たりにできるのもこの部署ならではのと思っています。

キャンパスで、地域で、チャレンジする広大生を紹介

HIRO-DAI HEROES

HERO
33

岡崎 咲代子 さん
(おかざき さよこ)
医学部医学科 6年

米国ペンシルベニア大学医学部で臨床実習

非常にレベルの高い米国の臨床実習環境で自分の可能性を試したいという思いから、ペンシルベニア大学医学部に留学しました。実習に参加するためには高い英語力が必要だったため、TOEICを何度も受検したり、大学生協を通じて英語プログラムに参加したりして留学に備えました。米国での実習で特に成長したのは、学びの主体性です。意欲を自らアピールすることを重要視する雰囲気、現地の医学生の積極的な姿勢に触発され、私自身も貪欲に質問し、自ら実習方法などを提案。学び続ける姿勢が身に付きました。将来の目標は、心臓血管外科医になることです。留学先で素敵な外科医との出会いが多くあり、私も目指そうと決意することができました。また、英語力向上のための努力も続け、将来の選択肢を広げたいと考えています。



実習先の
ペンシルベニア大学病院



心臓外科医の
Dr.Helmersと

お気に入り講義：
グローバルリーダー概論

世界で活躍する各界のリーダーの方々のお話を実際に聞くことができ、「留学したい」という意志が固まりました。



HERO
34

吉川 慧 さん
(きっかわ さとし)
医学部医学科 5年

研究をコンペで発表「コーヒーで腸を動かす」

研究者になりたいという思いから、医学科MD-PhDコース(4年次修了時点で学士課程を休学し、大学院に進学するコース)を選択。大学院では腸の上皮細胞がどのような環境因子の影響を受けるか研究し、その中でコーヒーが腸に及ぼす効果について調べました。コーヒーが腸のぜん動運動を誘発する現象については臨床試験も行われていますが、意外と知られていません。そこで「未来博士3分間コンペティション2023」に参加。コーヒーが術後イレウス(主に腹部手術後に腸の運動が止まる症状)の治療に有効である可能性について発表し、日本語部門で最優秀賞を受賞しました。現在は学士課程5年生に復学。2年間の臨床実習後、国家試験に臨みます。研究者としての道を見据え、臨床現場で研鑽を積みたいです。



プレゼンテーションでは、
聴衆を引き込む話し方を意識



顕微鏡で細胞の反応を
見ている様子

お気に入り講義：
解剖学

医学生として学問に対する姿勢を学んだ授業です。机上での学習と実際の人体との間にある大きな隔たりに気付かされました。



広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、
現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



生物生産学部 出身

若菜 まりえ さん

株式会社つくりおき食堂
代表取締役・時短料理研究家

わかな・まりえ／神奈川県出身。2004年に広島大学生物生産学部を卒業後、1年間フランスに留学。帰国後、食品原料を扱う会社などで活躍し、2016年よりブログ「つくりおき食堂」を開始。現在は時短料理研究家・料理インフルエンサーとして活動している。



歯学部歯学科 出身

畠 賢一郎 さん

株式会社ジャパン・
ティッシュエンジニアリング
代表取締役 社長執行役員

はた・けんいちろう／愛知県出身。1991年に広島大学歯学部を卒業後、名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。2004年にジャパン・ティッシュエンジニアリングに入社。2020年より現職。再生医療イノベーションフォーラム代表理事会長なども歴任。

食に対する興味関心を 追求した学生時代

幼い頃から料理や食べることが大好き。高校生の時、あるお菓子の食感に衝撃を受け、当時開発に携わった佐藤清隆名誉教授が所属する広島大学生物生産学部に入学を決めました。専攻は食品生化学。大学で学んだ“料理を科学的に捉える”視点や専門知識は、現在のレシピ開発・発信にとっても役立っています。

在学中はよくサークルの友達に料理を振舞っていました。「おいしい」ともりもり食べる友達の姿を見て、自分の料理を食べてもらう喜びを実感したことが、今の仕事の原点です。学生の皆さんも、友人をはじめ目の前にいる人との交流を大切に、濃い人間関係を築いてください。

大好きな料理を仕事に 手料理の安らぎを届けたい

卒業後は輸入商社などで勤務。海外出張も多く充実した仕事でしたが、出産後子育てとの両立は難しいと感じました。そこで、大好きな料理を仕事にしたいと考えてブログを開始。多忙な中でもキッチンに立てる時間をなんとか捻出し、ブログを更新しました。2018年の著書出版を機に企業タイアップ案件が増加。2020年に会社を退職し、料理研究家として活動するようになりました。

現在は液体塩こうじを活用したレシピや、味の素のうま味を生かしておいしく減塩する活動など数多くの企業案件を担当。ユーザーのニーズを満たし、実購買の増加とファン獲得に結びつく発信を心掛けています。「まりえさんのレシピがうちの定番に

なった」といううれしい言葉もいただきました。私ができるのは、“1回目”を提供すること。そこから定番料理になるまで繰り返し作っていただける、シンプルで優しいレシピを開発しています。心と体とお財布に優しいレシピなら無理なく料理が続けられます。そして、手料理だからこそ感じられる心の安らぎや満ち足りた時間を多くの人に届けられればと思います。

心に響いた人生の名言

「質問しないことは死を意味します」。これは指導教官である加藤範久教授の言葉です。興味があるからこそ質問が生まれるので、自分の講演でもたくさん質問をいただくと嬉しいです。

再生医療の有用性を広め、 社会の「あたりまえ」にしたい

私が代表取締役を務めるジャパン・ティッシュエンジニアリング(J-TEC)は、日本で初めて再生医療の製品化を実現した企業です。国内で承認されている20の再生医療等製品のうち5つは当社の製品で、いずれも患者さん本人の細胞を培養して治療に提供するというものです。製品化に当たっては、一般医薬品のように原料を確保して大量生産するのではなく、一つずつオーダーメイドで創り上げるビジネスモデルを確立しました。再生医療等製品を作るだけでなく、「再生医療という産業を創る」ことで、再生医療を一般化させたいという思いがあるからです。

私は会社の経營業務に加え、再生医

療業界を代表して行政との折衝なども行っています。その有用性を行政、社会に伝えるのも重要な仕事です。

再生医療は現状では保険適用が認められる症状の範囲が狭い、「特別な」医療です。今まさに有効性が認められてきたところですが、さらに適用範囲を増やし、「あたりまえ」の医療にしたいです。

思いもよらなかった 再生医療企業の道へ

広島大学歯学部では先生方の厳しい指導のもと、生理学、生化学など今の仕事、特に再生医療の研究につながることをたくさん学びました。

歯学部卒業後は先輩に誘われて別の大学の大学院で口腔粘膜の培養などを研究。J-TEC設立の際には研究者として

関わりました。その後大学を辞めて地元で歯科医院を開くつもりでしたが、J-TECにいた盟友から強く誘われて入社。気付けば現在に至ります。大学生の頃には思いも寄らなかった道を歩いています。不思議と後悔はありません。学生の皆さんも目の前の進路にとらわれず、柔軟に考えて進んでほしいと思います。

広大のここがええね!

地域の人や先生方にお世話になりながら、したいことを自由にできた学生生活でした。入学後すぐに創設した歯学部バレー部での活動は、学生時代を彩る思い出。今年で40周年を迎えるようです。

四季を彩るキャンパス名物

あの時、あの頃

キャンパスに息づく記憶を辿る

創立75+75周年を迎える広島大学。長い歴史の中でキャンパスにはたくさんの笑顔が生まれ、さまざまな物語が紡がれてきました。今では名物行事となったイベントの「あの時」や広大生の青春が詰まった「あの頃」を写真と共に振り返ります。

1973



新入生オリエンテーションキャンプ

1973年に広島大学体育会が大久野島で開始。以来、学生主体の新入生向けの交流イベントとして定着しました。現在は毎年4月頃に学部ごとに実施されていますが、1992年までは全学規模で行われていました。

1993



フェニックス駅伝スタートの瞬間
※2012年まで開催

1993



アメリカンフットボール部が
合格者を胴上げする、合格発表

1995



統合移転完了記念
フェニックスフェスタコンサート

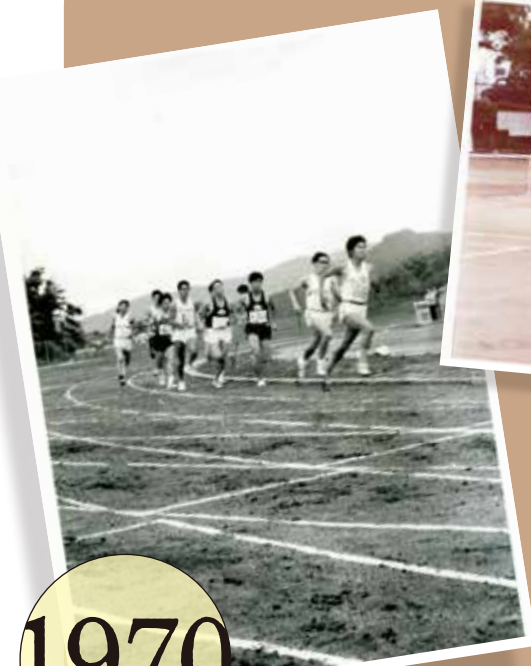
1995



ゆかたまつり

1996年に「七夕まつり」から改称。学生と地域の人々が浴衣や甚平を着て模擬店やステージ企画を楽しみます。クライマックスでは打ち上げ花火が夜空を彩る、夏の名物行事です。

キャンパスに染み込む努力の結晶



1970

中国五大学
学生競技大会
(陸上競技)



1970

中国五大学
学生競技大会
(軟式庭球)

中国五大学学生競技大会

中国地区の5つの国立大学が全20種目で競い合う総合競技大会です。1950年から始まり、2024年に75回目の開催を迎えます。広島大学は過去55回の総合優勝を果たしました。

1980



中国五大学学生競技大会
(バスケットボール)

1980



中国五大学学生競技大会(アーチェリー)

1996



ラグビー部 活動風景

1949年に創部、1972年、全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会で優勝。今日まで脈々と活動を続けているクラブです。勝利の喜びも敗北の悔しさも糧にして、日々努力を重ねています。

HU TOPICS

2024.4
|
2024.8

大学の動き

第7回ピース・レクチャー・マラソンを開催し、ASEAN事務局カオ事務総長が「特別招聘教授」に就任

広島大学では、5月、ASEAN事務局カオ・キムホン事務総長をお招きし、東広島キャンパスで第7回ピース・レクチャー・マラソンを開催しました。カオ事務総長は、ASEANにおけるカンボジアの国際関係の強化、政策提言の推進、研究・教育・開発の促進に尽力されている国際政治の専門家です。「ASEAN's Strategic Role in Maintaining Peace and Advancing Prosperity in the Region」(地域の平和を維持し、繁栄を促進するためのASEANの戦略的役割)をテーマに講演し、日本を含むパートナー諸国との対話の維持と、外交的手段による紛争解決の重要性を強調しました。会場に詰めかけた本学の教職員、学生ら約75人、加えてオンライン参加の約30人が熱心に耳を傾けました。越智学長からは、カオ事務総長に「特別招聘教授」の称号が贈られました。



総合科学部

総合科学部創立50周年記念シンポジウムを開催しました

7月20日、総合科学部創立50周年記念シンポジウムを開催しました。総合科学部を卒業し、各界で活躍する同窓生が、真に社会が必要とする能力について語り合いました。



教育学部

令和7年度の教育学部改組(新プログラムの設置および履修区分の変更等)について

令和7年度から、コース・プログラム名としての履修区分名称をプログラム名に統一すると共に、類内のプログラム定員を見直します。また、第三類に新プログラム「多文化・グローバル教育学プログラム」を新たに設置します。

本改組は文部科学省への手続きを経て確定するものであり、内容が変更となる可能性もあります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



経済学部

かえで賞の表彰式を行いました

4月25日、かえで賞受賞者の表彰式を行いました。かえで賞とは学業や学外テストで優秀な成績を収めた経済学部生を表彰するものです。この度は令和5年度における2年次終了時点での学業成績優秀者およびTOEIC®成績優秀者の5人が受賞しました。



文学部

オリエンテーションキャンプを開催しました

毎年恒例のオリエンテーションキャンプを開催しました。オリエンタリングやスタンツ(出し物)の発表など、大いに盛り上がりました。1年次生は同学年や先輩とのつながりができ、楽しい大学生活のスタートとなりました。



法学部

広島高等裁判所長官による講演を行いました

5月15日に授業「法学基礎」の一環で「法を学ぶ皆さんへ」と題し中山孝雄広島高等裁判所長官による講演を行い、主に法学部昼間および夜間主コース1年次生が出席しました。長官のご経験を踏まえた熱い講義に、学生は真剣な表情で耳を傾けていました。



理学部

マイクロン社との交流会を実施しました

4月24日に学部生、大学院理学系プログラムの大学院生を中心に約40人が参加しました。博士号保持者が企業でどのような役割を担い、活躍されているかなどについての講演と意見交換が行われ、博士課程後期への進学について考える機会となりました。



医学部

血中の老化関連因子と臨床情報の統合解析からフレイル診断のバイオマーカー候補を発見!

フレイルは要介護状態に至る前段階で、人々の自立や健康に障害を招く病態として注目されています。循環器内科学研究室の中野由紀子教授らは、国立長寿医療研究センター研究所と協力し、骨格筋量と老化関連因子として報告されている4つの因子(GDF15、Adiponectin、CXCL9、Apelin)が、フレイル診断に役立つバイオマーカーになりうることを発見しました。



歯学部

歯周炎が心房細動(不整脈)の予後に影響

心房細動は脳梗塞、心不全等の原因となります。これまで、その危険因子としては飲酒、肥満、高血圧が報告されていました。歯周病態学研究室應原一久助教らの研究で、心房細動手術予定患者の歯周炎治療が術後の心房細動の再発抑制に影響することが分かりました。



薬学部

遺伝子に傷を付ける損傷DNA原料の可視化に成功

遺伝子に傷を付ける損傷DNA原料である8-oxo-dGTPなどを生細胞で可視化する技術を、核酸分析化学研究室が新たに開発しました。この可視化技術はDNAの酸化を知らせるマーカーになり、この技術を応用すると抗がん剤の開発につながります。



工学部

学生キャンパスサポーターが母校を訪問し学部をPR!

工学部の2~4年次生を対象に、夏季休業中の帰省時を利用して母校の高等学校を訪問してもらい、後輩の高校生に対して工学部のPRをしてもらう事業を新たに展開します。お世話になった先生方に会って、これまでの感謝の気持ちを伝えると共に、社会経験を積む勉強の場となることを期待しています。

生物生産学部

ネーミングライツ施設開設記念式典を開催しました

生物生産学部で第1号となるネーミングライツ施設として、附属農場第一家畜舎が「デラバルラボ」となり、4月2日に開設記念式典を開催しました。デジタル化の進む酪農産業をアピールし、サステナブルな酪農産業に貢献できる人材育成を目指します。



情報科学部

海外の大学との交流を深めています

情報科学部では、昨年度から中国の華東師範大学と交換留学プログラムを開始しました。2025年3月には台湾の国立中央大学とも協定を結び、同様のプログラムを実施します。これからも本学部は国際的な学びの機会を提供していきます。



統合生命科学研究科

研究科ホームページの「研究・教員紹介」をリニューアルしました

統合生命科学研究科では、この4月から新たに11人の教員を迎え、新年度の教育・研究をスタートさせました。また、研究科ホームページの教員紹介ページをリニューアルしています。ぜひ、各教員の多様な個性と学界・社会での活躍をご覧いただければと思います。



医系科学研究科

医系科学研究科パンフレットを新たに発行しました

本研究科は医学・歯学・薬学・保健学が融合し、国際的に活躍できる人材養成や学術の高度化・複合化に対応できる研究活動を活性化し、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進する組織として発展してきました。



スマートソサイエティ実践科学研究院

スマートソサイエティ実践科学研究院設立記念シンポジウムを開催しました

6月20日、本研究院の設立記念シンポジウムを開催しました。「異分野融合+スマート社会の実現による社会問題の解決」をテーマに研究事例が紹介され、本学教職員、企業の方々、市民の皆さまに本研究院の特色を広く知っていただける場となりました。



先進理工系科学研究科

研究科説明会を開催しました

他大学や高等専門学校に在籍し、本研究科博士課程前期へ入学を希望する学生を対象とした説明会を、8月9日に開催しました。研究科の紹介や入試、経済支援制度の説明等を行いました。次回は2月の開催を予定しています。



“広大キャンパスの「イマ」をお届け” キャンパスNOW

令和8年度広島大学光り輝き入試 (令和7年度実施)から 3学部「女子枠」を 新設します！

理学部

工学部

情報科学部

Q1

女子枠の導入目的は？

理工・情報系分野のさらなる発展のためには、さまざまな視点を有する人材が不可欠であり、圧倒的に数が少ない女性の技術者、専門家および研究者の割合を高める必要があります。

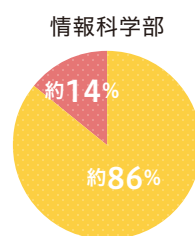
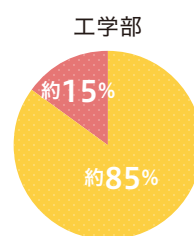
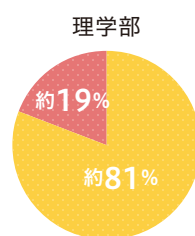
本学では、令和8年度広島大学光り輝き入試(令和7年度実施)に「女子枠」を新設すると共に、女子枠で入学した学生が地域や世界で活躍することができるよう、多様性を生かした教育プログラムのさらなる充実を図ってまいります。

Q2

女子枠を導入する学部・学科は？

- 理学部
(数学科、物理学科、
化学科、生物科学科、
地球惑星システム学科)
 - 工学部(工学特別コース)
 - 情報科学部(情報科学科)
- の3学部で導入します。

▶ 在学生男女比(令和6年5月時点)



● 男子学生 ● 女子学生

ほかの学部では
女性の割合が
約51%なのに対し、
この3学部では
約16%です。

Q3

今後のビジョンは？

理工・情報系の学問分野にさまざまな選抜方法を通して女子学生を迎え入れ、多様な人材が活発に公平に幸せに活躍する社会の実現のため、より良い研究・社会システム作りを先導する研究者や技術者を育成していきます。

選抜方法等の詳細など、
さらに詳しく知りたい方はこちらをチェック！



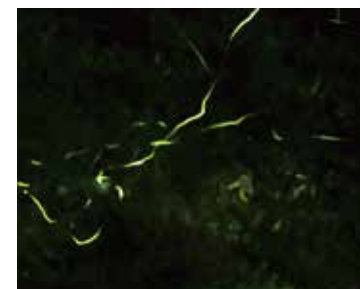
広島大学
公式サイト



Reader's View

HU photos

Instagramで#広島大学の
付いた投稿からお届けします。



2024.6.26

#広島大学 #東広島キャンパス
#ゲンジボタル #ホタルの観察会
#広島大学いきもの会
#生き物好きな人と繋がりたい

投稿者:hrdiikmniさん

HU ism

広島大学にまつわる、
読者から届いたちょっといい話をご紹介します。

昨年の夏、10年ぶりに広島を訪問。広島大学
出身者ではありませんが、研究者としてよく
通ったキャンパスに足を運びました。広大生は
今も活気に満ちていました。そして娘がこの春
広島大学出身の彼氏と結婚式を挙げ、我が家
は広大ネタで大盛り上がり。キャンパスでの初
恋の思い出や学食のカレーの味など他愛ない
話ばかりですが、何歳になっても大学時代を語
るときは輝くものですね。

ペンネーム:ペン21さん(徳島県吉野川市・63歳)

HU photos

広島大学にまつわる写真を#広島
大学を付けてInstagramに投稿し
てください。テーマは何でもOK!
素敵な写真をお待ちしています。

HU ism

広島大学にまつわる
逸話やエピソードを
募集します。あの頃の
懐かしい思い出話や
誰かに言いたくなる広島大学の秘
密を教えてください。

投稿
募集中!

投稿はこちら



投稿が掲載された方には

ひろティー®
トートバッグを
プレゼント!



WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。

いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus 検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計16名様にプレゼント!!

※応募締切:2024年11月30日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

- A 若菜まりえ氏
『忙しい人専用
つくろき食堂の
超ベストレシピ』
若菜まりえ著
(扶桑社ムック)



5名様

- B 広島大学
ひろティー®&
カープコラボグッズ
トートバッグ



1名様

- C 広島大学
75+75周年記念ラッピング電車・バス ステッカー&
75+75周年記念クリアファイル



10名様

2024年 広島大学75+75周年記念
広島大学弁当

学生のアイデアをもとに
広島大学ゆかりの食材を贅沢に詰め込みました

・白飯菜の花サラダソルト
・カイワレとじゃこのお浸し
・クロダイのムニエル
・タコのお好焼風キッシュ
・八潮銘菓せとこまち

広島大学 × ひろしま駅弁

◎ご注文は右記 広島駅弁当 EC サイトから
※売上の一部は広島大学基金へ寄付されます

広島銘菓
せとこまち

広島大学・尾道市と
弊社にしき堂が
共同開発した
広島銘菓「せとこまち」を
ご賞味ください。

にしき堂

広島市東区光明1丁目13-23 TEL:082-262-3131(代)
URL: https://niskido.co.jp Email: info@niskido.net
TEL 0820-979-1610(9:00~17:00) FAX 0820-963-161

食べたいものを
MAZE! MAZE!
するだけ!

あっ!
**おいっぱい
カンタン!**

otafuku オタフクソース

広島大学への寄附にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

広島大学基金

※広島大学が躍動し広島の地を活性化させる基金
(広島大学75+75周年に向けて)・応急学生支援金を含む

高額のご寄附をいただいた方(2024年5月まで)

●個人10億円以上
法人20億円以上

佐竹 利子 様
「特別荣誉賞」

●個人5億円以上
法人10億円以上

岡田外科医院 様
「荣誉賞」

●個人5000万円以上
法人1億円以上

公益財団法人
広島大学教育研究支援財団
理事長
佐竹 利子 様
株式会社 サタク 様
「学賞」

一般財団法人緑風会 様
「学賞」
財団法人渋谷育英会
理事長
小丸 法之 様
「学賞」

池田 英明 様
「学賞」
矢野 博文 様
「学賞」

●個人1000万円以上
法人2000万円以上

医療法人社団浜中皮ふ科クリニック
理事長
浜中 和子 様
書馬 輝夫 様
「名誉校友」

医療法人あかね会
理事長
土谷 治子 様
「名誉校友」

株式会社広島銀行
代表取締役頭取
部谷 俊雄 様
「名誉校友」

医療法人社団まりも会
ヒロシマ平松病院
理事長
平松 廣夫 様
「名誉校友」(冠寄附者)

医療法人たんぽぽ会
理事長
大嶋 俊一 様
「名誉校友」

小野 光代 様
「名誉校友」

医療法人社団昭信会
瀬島産婦人科病院
理事長
頼島 信 様
「名誉校友」

医療法人社団ヤマナ会
会長
山名 征三 様
理事長
山名 二郎 様
「名誉校友」

東洋観光グループHDD
日本基準寝具株式会社
代表取締役
今井 誠則 様
「名誉校友」

勝矢 博 様
「名誉校友」

越智 光夫 様
「名誉校友」(冠寄附者)

平尾 泰保 様
「名誉校友」(冠寄附者)

猫本 宏司 様
「名誉校友」(冠寄附者)

鶴野 俊雄 様
「名誉校友」

松川 博之 様
「名誉校友」

三嶋 弘 様
「名誉校友」

徳永 彰 様
「名誉校友」

星山 政昭 様
「名誉校友」

天野 純子 様
「名誉校友」

児玉 咲子 様
「名誉校友」

田中 隆莊 様
「名誉校友」

●個人500万円以上
法人1000万円以上

オタフクソース株式会社
取締役会長
佐々木 直義 様
「名誉校友」(冠寄附者)

医療法人社団仁慈会
理事長
安田 克樹 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社バロコム
林 淳二 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

医療法人おち眼科医院
理事長
越智 温子 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社築地
代表取締役社長
平尾 眞裕美 様
「名誉校友」

医療法人せのがわ 瀬野川病院
理事長
下原 唯千夏 様
「名誉校友」

社会医療法人社団沼南会 沼隈病院
理事長
檀谷 鞠子 様

公益社団法人内外いくえい会
代表理事
高橋 喜人 様

医療法人社団玄同会
理事長
小島 敬太郎 様
「名誉校友」

医療法人多布施クリニック
理事長
諸隈 啓子 様
「名誉校友」

株式会社社会人社グループ
代表取締役
福井 滋 様
「名誉校友」

株式会社不二ビルサービス
代表取締役
瀧野上 隆志 様
「名誉校友」

株式会社メンテックワールド
代表取締役社長
小松 節子 様
「名誉校友」

西川ゴム工業株式会社
代表取締役会長
西川 正洋 様
「名誉校友」

広島ガス株式会社 様
「名誉校友」

広島信用金庫
会長
武田 龍雄 様
理事長
川上 武 様
「名誉校友」

広島電鉄株式会社 様
「名誉校友」

広島オートリークラブ 様
「名誉校友」

三井住友信託銀行株式会社
代表取締役社長
橋本 勝 様
「名誉校友」

河野 修興 様
「名誉校友」

坂下 勝 様
「名誉校友」(冠寄附者)

バラカ株式会社
代表取締役
内藤 亨 様
「名誉校友」

小松 正夫 様
「名誉校友」

佐藤 利行 様
「名誉校友」

登田 隆 様
「名誉校友」

宮崎 成樹 様
「名誉校友」

佐々木 元 様
「名誉校友」

内池 平樹 様
「名誉校友」

海生 俊史 様
「名誉校友」

邱文揚 様
「名誉校友」

石貴容 様
「名誉校友」

藤岡 道治 様
「名誉校友」

●個人100万円以上 法人100万円以上

医療法人社団みめぐみ会
サンクリニック
理事長
中村 雄二 様

医療法人恒和会
松石病院
理事長
松石 頼明 様
「冠寄附者」

株式会社社経陽
代表取締役社長
寒川 起佳 様
「冠寄附者」

戸田工業株式会社
代表取締役
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

医療法人KOC
金谷整形外科クリニック
理事長
金谷 篤 様
「冠寄附者」

医療法人社団
梶山小児科
理事長
梶山 泰正 様

医療法人社団陽正会
寺岡記念病院
理事長
寺岡 暉 様

医療法人社団微風会
ピエラ花の里病院
会長
和泉 一子 様

医療法人明笑会
理事長
安本 正徳 様
「冠寄附者」

医療法人明和会
北広島病院 様

株式会社シンコー
代表取締役社長
簡井 幹治 様

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

白築 俊彦 様
白築 秀美 様
広島市信用組合 様
三島食品株式会社 様
温泉川 梅代 様
弁護士
緒方 俊平 様
「冠寄附者」

株式会社Alumnote
代表取締役社長
中沢 冬芽 様

Micron Technology
Foundation, Inc. 様
医療法人ピーアイエー
理事長
中村 英雄 様

奥田 晃章 様
向笠 富夫 様
医療法人K&Clover
理事長
小林 健二 様
「冠寄附者」

広島市医師婦人会 様
杉村 功 様
中島 淑乃 様
平岡 恒雄 様

医療法人社団慈杏会
土肥整形外科病院 様
代表
奥原 征一郎 様

田中電機工業株式会社
代表取締役
田中 秀和 様

株式会社総合広告社
代表取締役副会長
坪井 高義 様
「冠寄附者」

医療法人社団慈恵会
いまだ病院
院長
大杉 健 様
「冠寄附者」

医療法人辰川会
理事長
辰川 自光 様

株式会社にしき堂
代表取締役
大谷 博国 様
「冠寄附者」

株式会社にしき堂
代表取締役
中村 靖富満 様
「冠寄附者」

株式会社日本
クライメイトシステムズ 様
「冠寄附者」

西川ゴム工業株式会社
代表取締役会長
西川 正洋 様
「名誉校友」

広島大学
消費生活協同組合
理事長
細野 賢治 様

医療法人昭和
原田整形外科病院
理事長
原田 昭 様
「冠寄附者」

医療法人社団スマイル
博愛クリニック
理事長
高杉 啓一郎 様
「冠寄附者」

広島大学歯学部同窓会 様
「冠寄附者」

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社中国新聞社
代表取締役社長
岡谷 義則 様
川尻 武信 様
栗栖 長典 様
中外テクノス株式会社 様
中村角株式会社
代表取締役
中村 一朗 様
広島大学広楓会 様

部谷 正人 様
宮谷 真人 様
山根 恒弘 様
吉田 総仁 様
片木 晴彦 様
石原 隆雄 様
藤井 輝久 様
山田 道夫 様
相川 清文 様
杉村 功 様
中島 淑乃 様
平岡 恒雄 様

RF技研工業株式会社
代表取締役
玉村 俊雄 様
同窓会広島県支部 様
広島日野自動車株式会社
代表取締役社長
上野 孝史 様
藤本 吉範 様

丸正産業株式会社
代表取締役
高羽 謙 様
山本 佳史 様
力田 忠義 様
広島大学総合科学部
同窓会 様

医療法人社団柄齒科医院
柄 俊彦 様
医療法人社団中川会
院長
中川 豪 様

医療法人清泉会
一ノ瀬病院 様
増井 孝子 様
松村 誠 様
道中 美敏 様
三村 邦雄 様
宮本 博子 様
村上 恒二 様
望月 可奈子 様
八幡浜市役所 様
ヤマホールディングス
株式会社
緒方 俊平 様
「冠寄附者」

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

許 泰一 様
協同出版株式会社
代表取締役
小貫 輝雄 様
楠 雄治 様
小池 透 様
公益財団法人
浦上奨学会
理事長
浦上 浩 様
高祖 讓 様
佐藤 裕子 様
重山 俊彦 様
理事長
新谷 貴之 様
末廣 眞一 様
鈴木 孝尚 様
住田 忠幸 様
高田 隆 様
田中 知満 様
寺本 康俊 様
天道 俊孝 様
土肥 博雄 様
永井 敏隆 様
永井 眞由美 様
長瀬 洋一 様
長谷川 泰二 様
平田 敏夫 様
広島アルミニウム
工業株式会社
代表取締役社長
田島 文治 様
広島県厚生農業
協同組合連合会
尾道総合病院 様
福田 和恵 様
福田 幸雄 様
藤村 欣吾 様
復建調査設計
株式会社 様
堀 司郎 様
増井 孝子 様
松村 誠 様
道中 美敏 様
三村 邦雄 様
宮本 博子 様
村上 恒二 様
望月 可奈子 様
八幡浜市役所 様
ヤマホールディングス
株式会社
緒方 俊平 様
「冠寄附者」

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠寄附者)

株式会社サエ
山坂 哲郎 様
「名誉校友」(冠



あの頃
広大は



日本と広島大学、スポーツ新時代の幕開け

1964年、東京でアジア初のオリンピック・パラリンピックが開催。オリンピックで日本は金16個を含む29個のメダルを獲得し、大きなインパクトを残しました。その前年、1963年に広島大学初の全学的な学生組織として広島大学体育会が発足し、600人以上の運動部員が施設整備や資金確保に努めました。フェニックス駅伝などのイベントや、オリンピック金メダリストを招いた講演会も開かれました。日本スポーツの転換期となったオリンピックと同時期に始まった体育会は、広島大学のスポーツ文化の基盤を築き、現在も体育活動の振興に尽力しています。



1964年 広島大学体育会発足一周年記念パレード(写真は現体育会同窓会会長の山根恒弘様)

広島大学の昔の写真を募集します。

青春を過ごした思い出の場所や、当時の雰囲気を感じられる風景など、ご自宅に眠る広島大学の写真を、エピソードと共に送ってください。読者の皆さんと一緒に昔を懐かしみましょう。

ご応募はP28のHU ism投稿フォームまで。



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学

編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

<https://www.hiroshima-u.ac.jp>

